

研究主題 「十河の香り」を育み、未来を拓き社会に出る教育

～6つの資質・能力「5領域カリキュラム」の社会科・生活科の学習を

「問題解決的実践学習」で深める～

◎ 社会に出る教育の実践化

○十河の香り活動の継続と充実



○生活科、社会科における発信活動や社会参画



地域教材を開発し、地域のよさを地域の人から学ぶ活動を通して、十河の町に愛着をもち、地域の中で育ち、地域の未来を切り拓く子どもたちの育成を目指してきた。

◎ アクティブ・ラーニングの視点に立つ問題解決的実践学習

○問題解決的実践学習による授業づくり

<問題をもち、見通しをもつ段階>



動機付け、ゴールのイメージをもつ

<調べ、考え、表現し、まとめる段階>



思考操作をもとに対話的な学びを行う

<つなぐ段階>



学校と社会の接続を意識する

○思考操作、対話のある学び



絵文カードや短冊に自分の考えや調べたことを書き、友達と対話しながら思考操作することで、新しい概念をつくることができた。

○板書、ノートづくり



子どもの思考を促す構造的な板書や、板書の開放により、子どもたちの対話を活性化することができた。

◎ カリキュラム・マネジメントとしての授業評価

ワークショップ型の授業討議により、全教員の意見を大切にしながら、アクティブ・ラーニングの視点に沿った討議を行った。

**成果**

対話を活性化するためには、視点を明確にしたり、思考操作を行うことで「何が見えてくるのか。」という課題解決の見通しをもてるようにしたりすることが大切だと分かってきた。「アクティブ・ラーニングの10の指標」の「①学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができますか。」という質問については、目標値(★)に近づくことができた。

**課題**

「②友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。」という質問で、まだまだ課題が見られる。対話活動について、自分の意見をしっかり言えるようにするとともに、友だちの意見にも最後まで耳を傾けて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるようにしていきたい。

